

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 好典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 亀山 信夫

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は「技能と心の調和」であり、目指す人材育成像は「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」である。

また、本校生徒のかかわる分野(医療・福祉・保育・薬業)では「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」になれるよう日々の学校生活から意識させる取り組みをしている。

この目標は全教員で共有し、日々の授業・行事等で意識して取り組んでいくようにしている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

平成 28 年度教務目標「みんなで育てるかわいい人材」

重点目標「教員の連携・意識向上」「保護者と連携強化」「学生の意識向上」を達成するために

下記のことを取り組む。

- ・ 職員会議にて生徒状況を共有し、退学防止や皆精勤向上の対策を検討する。
- ・ 教員研修を定期的開催し、成功事例などを共有し、新人教員のスキルアップにつなげる。
- ・ 教科担当に授業皆勤率を設定してもらい、魅力ある授業展開を意識し、生徒が学校に来たくなる仕組みを作る。
- ・ 各クラスに関わる教員でクラス会議を実施し、リアルな情報を共有する。
- ・ 生徒の保護者へ信頼構築のため、電話掛けをし、連携の強化を図る。
- ・ 新入生に対して入学前に保護者説明会を実施し、保護者に連携の大切さを伝える。
- ・ 新入生に対してスタートアッププログラムを通して学校に来ることの大切さを落とし込む。
- ・ 夢のスケッチブックを活用し、生徒が自ら目標を具体的に設定し、実行計画を立て日誌で振り返りを行う仕組みを作る。常に自分の目標を意識させ、目標を見失わせないようにする。

② 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

教育理念・育成人材像などは継続的に伝えていく必要がある。

昨年度よりは業界との繋がりが少しずつ取れてきたが、今後も継続的に連携を図る必要がある。

業界の方にもっと学校に来校いただき、アドバイスをもらう機会も必要となる。

② 今後の改善方策

昨年同様、「どのような人材が社会で求められるか？」を生徒に考えさせる時間をより多く作る。

保護者には学校への理解を深めてもらうために接点を増やし、信頼関係を構築する。

継続的に求められる学校像に対して、正確に課題を見極めることで具体的な対策を掲げ、実践していく。

業界の方に行事などの見学案内を積極的に行い、接点を増やす。

③ 特記事項

毎年のことであるが、年度初めに実施する新入生入学前オリエンテーション・新入生保護者説明会で教育理念や学校の方針をより理解できる内容にしていかなければならない。

③ 学校関係者評価委員会コメント

・学校にいるときや表面的ではなく、TPOに合わせて普段から身に付け入るマナーが重要。

・社会的弱者の権利を守り、相手に応じ臨機応変に関われることや相手の気持ちが理解できる人物が必要。

・現場に関わる人の年齢に応じた価値観の違いを理解できる人材が必要。

また外国人が多くなっているため、英会話ができると大変助かる。

身だしなみは一定基準を設けたほうが良い。

・社会人として基本的な事（挨拶・報告連絡相談等）は最低限教えて来てほしい。

・自分自身の事をわかっていない新人が多い。何が出来て出来ないのかを判断できるように最低限なってほしい。

・考え行動できる人物になって頂きたいが、なかなか難しい現状があるのは理解できる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

今年度も WEB などの活用で情報のシステム化がなされ、業務の効率は上がったが、まだまだ業務改善や業務整理が必要である。

昨年度よりはコンプライアンスに関して教職員の理解と意識向上が少しできたが、まだまだ十分とは言えないため、今後の課題である。

② 今後の改善方策

今年度は教務事務を担当する職員を採用し、業務改善・業務整理に取り組めた部分はあるが、引き続き、業務について学校としても「この仕事の意味」「目的」を考え、精査する必要がある。

新入教職員にはコンプライアンス DVD を視聴させ、意識を持たせる。学園としても更なる整備を実施する。

④ 特記事項

特に無し

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

業務改善にアドバイスをいただく。

- ・業務の効率化を実施している。例えば水曜日はノー残業デイを実施。上司による業務の把握の徹底。
- ・人材不足には、IT を使い業務を減らしたらどうか。介護業界では、ロボットに期待をしている部分がある。
- ・残業を減らすことに苦労している（会議や研修が増えているため）。事前に会議案件に対してヒアリングを行い、対応をしている状況。
- ・定期的に勉強会を開催している。その際必ず具体例を基に話し合いなどが設けるようにしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

現場実習先から評価を頂いている生徒・学校についての結果が活用をもっとしていかなければならない。
関連業界との連携が取れてきたが、まだまだ不十分である。

② 今後の改善方策

カリキュラム変更やシラバスの見直しが進んできているので、現場の意見をより多く取り入れ、職場で活躍するためには何か必要かを討議し続ける必要がある。また、引き続き現場実習先のアンケート結果を検証し、生徒の不足している能力を補い、学校として事前事後の指導を強化する。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・知識はあるが動けない、活用できない新人が多いため、授業中に受付等シミュレーションができると現場に役立つ。
- ・コミュニケーション能力を上げられる授業があると良い。まずはなぜ必要なのか理解をさせるところから

始めてほしい。

・お互いに実技を見せ合う、そして考えさせる授業をしてほしい。受け身だけの授業だと成長できないため。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

昨年同様、就職率・検定取得率は低い数値ではないが、現状維持または向上するために継続的な対策が必要である。退学率は昨年に比べ減少しなかったため、退学防止に関しては最重要課題である。目標喪失の退学者だけでなく、精神的に弱い生徒も多くなっている傾向があるため、対策を検討する。

② 今後の改善方策

今後も新人担任には担任指導者を設置し、きめ細かな生徒指導ができる体制を整える。ホームルームの前後に時間を取り、伝え方・指導の仕方などをアドバイスし、より良いクラス運営ができるようにする。

担任力向上のためにも互いのホームルームを見学する。また、姉妹校と情報交換を行い、成功事例を共有していく。

卒業生の卒業後の把握が例年よりは取れてきたが、今後も同窓会にてアプローチをしていく。

③ 特記事項

毎年、就職率向上には「エリア担当制」を導入し、担任・エリア担当で就職をサポートしている。継続して求人を受けられるように繋がりを強化していかなければならない。役職者も訪問に同行し、常に現状把握する必要がある。検定取得率向上には当校独自のシステム「検定 WEEK」を実施する。更に放課後の補習で合格ラインに達してない生徒に手厚いフォローを実施する。基礎学力が低下しているため、教科間の連携や担任との連携が必要となる。退学率の低減には例年通り「新入生入学前オリエンテーション」で入学前後のギャップの払拭し、「新入生保護者説明会」にて学校教育への理解と連携を依頼する。入学後の不安解消として、個人面談の定期的開催、スクールカウンセラーの設置し、客観的な立場から生徒に関わってもらう。

・ 平成 28 年度就職率 96.2%(304 名/316 名)

・ 平成 28 年度退学率 6.1%(前年度 4.6%)

・ 主な検定結果(平成 28 年度)

医療事務検定1級合格率:88.9%

診療情報管理士認定試験合格率:88%

介護福祉士取得率:100%

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生のフォローに関しては、ぜひ訪問して頂き声を掛けて頂きたい。実際に教員の励ましの言葉で、退職を考え直した事例もある。

・採用したが、離職してしまう人が多くいるのが悩み。OJT 制度などで、新人育成には力を入れているが難しい。学生時代に社会人育成を行っていただけると助かる。

- ・高校では職業から学校を選ばせている。入学してみると、入学前とのギャップが生まれているので、事前指導が重要。
- ・就職後のフォローに関して、退職した卒業生の理由は抑えて頂きたい。辞めた理由を基にして、指導をしたらどうか。
- ・常に訪問をして頂き、求められている人材を確認してほしい。時代によって変わってきている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

引き続き、皆精勤率向上・退学率低減には保護者との連携を取る必要がある。
卒業生の支援体制も同窓会を含め、整いつつあるがまだ不十分である。

② 今後の改善方策

引き続き、早期に保護者との信頼関係の構築が重要である。今後も挨拶も含め、担任より連絡を取り、情報共有・意見交換をしていく。行事参加への積極的な案内、生徒の様子を定期的に伝える取り組みをする。学園全体で卒業後の繋がりを強化し、いつでも相談できる学校の体制を構築する。

③ 特記事項

近年の人材不足の観点からも、卒業生が教員として戻れる環境をもっと作っていきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者様との連携を強化していくのが良いと思う。高校が行っている例として、入学前に必ず学校に来てもらい、時間を掛けて面談を実施。2ヶ月ごとに保護者通信を発行。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

授業中に実践力が身に付くロールプレイングの授業の実施も必要である。

防災対策について教員の意識を向上させる取り組みが課題である。

② 今後の改善方策

カリキュラム変更やシラバスの見直しを進め、もっと現場に即した実践的な授業を取り入れていく。

防災対策意識に関しては教員には会議、生徒には HR を通じて、伝えていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

外部からの意見を頂く機会は以前より増えたが、まだ不十分である。

② 今後の改善方策

より多くの外部評価を頂き、学校教育にも取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

多くの人材を輩出することで社会貢献は少し出来ているが、地域に対して貢献はまだ不十分である。

② 今後の改善方策

実習先や就職先の医療機関・施設と繋がりを強化し、ボランティア等の地域貢献ができる活動を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・介護系のボランティアはたくさんある。
- ・医療系は大規模医療機関にボランティアを募集しているが少ない。
- ・学会や勉強会のボランティアの紹介をしたらどうか。（受付や案内）
- ・ボランティア活動をしている生徒を見ていると、応援をしたくなるのでぜひ積極的に参加をさせてほしい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

引き続き、留学生の受け入れ体制を強化する必要がある。また、今後の実習・就職で施設との連携が必要となる。

② 今後の改善方策

在校生を活用し、留学生が入学しやすい、雰囲気を作る。
実習先・就職先との繋がりを強化していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は「教員の連携・意識向上」「保護者と連携強化」「学生の意識向上」という重点目標を掲げているが、学校にとって今後も大切な目標となってくるため、継続的な仕組み作りが必要である。多様な生徒が多く入学してくる現状を考えると教員の教育力のみならず、それに付随する知識も身に付けていかなければならない。まだまだ体制が完璧に整っているとは言えないことを考えると外部研修や勉強会などを積極的に行う必要がある。個々に必要な対応をするためには授業に関わる教科担当との連携も重要となる。情報共有を積極的に行い、協力体制を構築していく。心の悩みを抱えて入学する生徒が増えているため、スクールカウンセラーにも相談しつつ、柔軟な対応が求められる。

学校だけでは対応しきれない、指導しきれない部分もあることを考えると継続的に保護者との連携も必要となる。改めて「専門学校は社会人育成の場」であるということを念頭に置き、学生から社会人へ成長させる学校でありたいと思う。

学校を運営していく限り「選ばれる学校」を目指し「教務・就職・広報」において、生徒・社会が満足するサービスを提供したい。それと併せて、働く教員が「誇れる学校」と思えるような学校を目指していきたい。

以上